

本書『行政法ガールⅡ』は、平成26年～令和元年司法試験公法系第2問（行政法）の問題を素材として、行政法事例問題の解き方を学べる小説です。平成18年～25年司法試験を素材にした拙著『行政法ガール』（法律文化社、2014年）の続編という位置づけになりますが、本書単独でも利用可能なように執筆しておりますので、その点をご安心ください。

本書の主な想定読者は、行政法事例問題に取り組むことがある法学部生、ロースクール生、社会人受験生などです。幸いにも前作の『行政法ガール』は司法試験受験生に限らず、行政書士受験生や行政法に関心のある方にも広くお読みいただいたようであり、本書も行政法紛争事例の解決法に関心のある方にお読みいただくのもよいと思っております。

本書の特徴は、次の4点です。

第一に、小説本文では、ストーリー形式で行政法事例問題の解き方を学ぶことができます。通常のテキストや解説書と異なり、登場人物の対話を通じて紛争事例の解決方法を学ぶことができる、というのが大きな特徴です。

第二に、各章末尾には各問題の解答例を付しております。司法試験、予備試験、法学部の学部試験等で出題される行政法事例問題について「実際にどうやって書いたらよいのか」と悩まれる方は多いと思われます。そこで、小説本文の解説を踏まえた筆者作成の解答例をつけました。もっとも、法学の論文式試験では多数の解答の筋があるのが通常であるため、筆者作成の解答例はあくまでサンプルの1つとして利用してください。小説本文を読めば、いくつかの解答の筋があることは自ずとご理解いただけると思います。

第三に、「ラミ先生のワンポイントアドバイス」という項目では、行政法事

例問題で悩みがちな論点を取り上げて解説しています。この項目では、①裁量基準の論じ方、②原告適格の解釈技法、③処分性の判断方法、④原告適格のモデル分析、⑤仕組み解釈の技法という5つのテーマを取り上げて解説してみました。いずれの事項も司法試験では極めて重要です。小説本文が各年度の司法試験を縦串で解説したものだとなれば、「ラミ先生のワンポイントアドバイス」は各年度で繰り返し問われる重要論点を横串で解説したものと言えるでしょう。

第四に、小説本文で引用した重要判例について、判例一覧を作成し、本書末尾に添付しました。重要判例の理解については繰り返し問われることが多いため、判例一覧を活用して学修することも有益でしょう。

本書の使用方法は、読者によって様々です。行政法事例問題の解き方を学ぶという使用方法もあれば、単に小説部分を読んで楽しむという使用方法もあるかと思います。もっとも、司法試験受験生の場合には、各年度の解説を読む前に司法試験の問題を実際に解くことを推奨します。自分自身で各問題に取り組んでから本書の解説を読むほうが、学修効率は圧倒的に高くなります。

本書が、読者の皆様の行政法学修の一助になることを、筆者として切に願います。

令和2年7月
弁護士 大島義則